

日本学術会議

若手アカデミー会議(第24期・第2回)国際分科会

議事要旨

日 時 平成30年7月12日(木) 13:30～17:00

会 場 日本学術会議5-A(1)

出席者：(現地出席) 8名

新福、西嶋、安田、中西、岸村、竹村、中澤、川崎、狩野 (Skype 出席)

議事及び次第

(1) GYA 報告(新福) 資料1

GYA 総会に若手アカデミーから、岸村、岩崎、新福が参加し、新福が執行役員に選出された。来年 GYA 10 周年であり、総会がドイツで開催の予定。

(2) タイの ToF ワークショップ研修報告(安田) 資料4

その活動例が実演とともに紹介された。

(3) INGSA 企画について(新福) 資料2

現在、実施内容を調整中。17 人の若手(うち若手アカデミーは10 名程度)が参加の予定。

(4) アジア学術会議について(西嶋)

平成30年12月5～7日に第18回アジア学術会議が日本学術会議で開催される。

平成30年12月6日(木)16:00～17:30 場 所：日本学術会議「講堂」(東京都港区) ここで科学と社会委員会・若手アカデミーの合同企画を行うことがメール審議(若手アカデミーメンバー)を経て承認されたことが報告された。この中でカルチャーと科学について若手アカデミーが主導して企画する。今後、テーマを絞り人選を行っていく。

(5) その他(新福、各課題代表者) 資料3

国際分科会・24 期活動プランについて、各課題代表者から説明があり、活動内容を議論した。最終的アウトプットを提言等に絞らず、実効性・有効性があり、実現可能な形態で行うことが重要であることを確認した。また、活動は唯一無二であること、若手アカデミーの特性を生かすことが重要であるとの指摘があった。

1. 世界における日本のアカデミアのビジビリティ(新福)

GYA の活動等を通してビジビリティを上げていく

2. 教育システムが脆弱な杭や地域での人材交流(西嶋)

将来的に良き研究パートナーとなれるように支援していく

3. SGU の可視化と共有(塩見)

4. 国際化に伴うインフラ整備(中西)

大学、研究所のみならず地域のインフラ整備も重要であることを確認した。今後は地域ぐるみで

国際化に取り組んでいる地域担当者から情報収集を行い、成功事例の情報公開、ワークショップの開催等を通じた発信を目標とする。

5. 海外におけるデータ取得に関する障壁（安田）

研究に必要な自然サンプルの正しい取引のために世界で設置されている機関、CITES（ワシントン条約） institute（サイテス＝インスティテュート）について関連部署と連絡をとり現状把握を行う。

資料 1	GYA 報告
資料 2	INGSA ワークショップ案
資料 3	若手人材育成 2 4 期プラン
資料 4	ファシリテーター育成ワークショップ